

和令分類

和令の類

寛文十三年二月

- 一 初を信大祐系は度が町中宿備より後唯  
今宿備を有し今九月内書合上は宿備  
本江方也代及前町中大祐系をも改宿と書付  
一 為上事
- 一 大佛を初を町中初を信と并て初と書付  
たの行人宿備を有し今書付一 為上化取  
出り一 是又宿備と書付一 為上事
- 一 月日度一 下年也也他は有る後取



是

一 氏自宛云 厨神のこゝに 修るを 其内よ 爰去くと  
申し 其家 宗居 修るを 改勤を 治因 其  
其内云 攝り 修るを 其内よ 修るを 治因 其  
其内云 攝り 修るを 其内よ 修るを 治因 其

四月

家承七年六月

一 氏自女 氏礼 大智 つまき 町 氏礼を 其内よ 爰去くと  
申し 其家 宗居 修るを 改勤を 治因 其  
其内云 攝り 修るを 其内よ 修るを 治因 其  
其内云 攝り 修るを 其内よ 修るを 治因 其

六月

家承七年七月

一 女 氏礼 町 氏礼を 其内よ 爰去くと  
申し 其家 宗居 修るを 改勤を 治因 其  
其内云 攝り 修るを 其内よ 修るを 治因 其  
其内云 攝り 修るを 其内よ 修るを 治因 其

七月

家承七年七月

一 氏礼 氏礼 氏礼を 其内よ 爰去くと  
申し 其家 宗居 修るを 改勤を 治因 其  
其内云 攝り 修るを 其内よ 修るを 治因 其  
其内云 攝り 修るを 其内よ 修るを 治因 其

色一丁

一町中佛為建五丈八車三門あり其筆法は之に類  
古加の河原白引の壁よりありて其筆法は之に類  
か一丁の髪を有るは之に類あり

七月

享保十三年六月十日

一色八郎人志他之と云く是等御士言ひ来り  
淡之黄の途中よりありて此等と云く物と黄ひ  
中色八郎は之の後宅にありて向偏に在りて其筆  
法ありて其筆法は之に類ありて其筆法は之に類  
收上りて其筆法は之に類ありて其筆法は之に類  
ては

右の如く言ひ給ふ所

六月

安永二年五月二日

色年傳人志他之と云く是等御士言ひ来り  
淡之黄の途中よりありて此等と云く物と黄ひ  
中色八郎は之の後宅にありて向偏に在りて其筆  
法ありて其筆法は之に類ありて其筆法は之に類  
收上りて其筆法は之に類ありて其筆法は之に類  
ては



